◎　［1579 - 1655］　『』（岩波文庫）

１．にのるとうをええり。**にり、にり、にり、くはなれども、とるのをしすし。れもをしし、のとるべし**。

２．**は、【ディオニュソス】をにしてすべし**。… ・【**ディオニュソス**】のにをて、

**【ディオニュソス】をすべし**。… **のをずんば**にくべし。にきをいるのなし。

　るに**、れて**、すべくりて、**たをいるなし。**ばかりなり。**には、とて、たをいることなり。をらず、にり、にり、みてとえり。**はりたるなどと、さもなきをにげ、いくし。

　**はげなをも、りげなをもず。**、をて、につばかりいるなり。れも・【**ディオニュソス**】のの**をけ**、しじて、をすべし。…

**こののつをて、はするなり。にるし。たるも、ぬけがらにてせば、にべからず。くをて、のをしすべし**。

３．は、いかにもしてるにすべし。らざるになどし、**くなどすべからず**。**にをし、などすれば、れ、へりて、のにもたず**。りてすなり、れもえるべし。きは、よりもくるなり。

　**とうは、をいるなり**。にもといえり、**ずをへらすべからず**。

　、をなし、**ぬけがら**をなして、へりてとり、いとるをらず。をめ、をすべし。

４．さるにしてく、「**めよりしきにて、をいたるがきなり**。には、**ときの［戦場で士気を高める声］のにいるをわでわず**。をばたばたとちて、いにをえてわっわっとて、れあうにていて、ここでうなり。**なにとなるをむが、のにてわれんや**。じて、**はなにときなりとうとも、ときののにてにたぬならば、てたがよきなり**。る、**【ディオニュソス】をりうなし**。さて、の、**【ディオニュソス】**のにてのにうるべからず。」

　く、「**のをてすなり**。、などは**ぬけた**にてわるべからず」と、**らきっとをえたるをしてく、「のなり。れども、はうばかりにて、刀をくとやけるなり。るに、のは、このをかずいるなり**。このににけるなし。にしするにって、やのなるにもい、にしてなり。**のくいるをとう**なり。」

５．**とうは、・【ディオニュソス】ののをけてすることつなり。このをてをめすより、にをらず。**もしがにらんとうは、**をひって、をすえ、・【ディオニュソス】、ののをけ、【ディオニュソス】をて、をすべし。**より、この【**ディオニュソス**】のしたるかねども、にしても、がにしていてになり。**は**とにくきうとえたり。**このをずして、につるべからず**。

　に、【**ディオニュソス**】**のをるとうことをくるべし。**にしてのるベからず。**ら**【**ディオニュソス**】**にをて、、【＝ディオニュソス】をるべし**。